

経済建設委員会会議録

平成24年4月18日

10時00分

開会

10時19分

閉会

網走市議会

午前10時00分 開会

○佐々木委員長

それでは時間となりましたので、経済建設委員会を開催したいと思います。

本日の委員会の進行ですが、議件1件、その他1件について予定しております。

議件1件目は、5月に実施予定の行政視察について最終確認をしていただきたいと思います。

また、その他としては、名鉄関連の企業譲渡についてを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

ではまず、行政視察につきまして、皆さんに日程表が配られていると思いますが、このような、皆さんからいろいろ御意見をいただいた中で、最終的に正副委員長のほうでまとめさせていただいた結果がこのような表になっています。

これでよろしいかどうか皆さんからお答えをいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○佐々木委員長

異議ないようですのでこのような行程で行いたいと思います。

次に、委員会報告の取りまとめの方法について御協議いただきたいと思います。

レポート報告によるのか、委員会発言でまとめるのか、ということで、どちらの方法でやるか皆さんで御検討いただきたいと思います。

○平賀委員

前回、議論を行いました、レポートを提出することとあわせて、口頭で、委員会の中でも報告をするということ。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

それでは、まずレポート報告をいただいた上で、最終的に委員会で皆さんの発言をいただきながら、取りまとめるということで、このような報告にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、議件としてはこの行政視察についてですので、行政視察についてはこの日程表どおりで行うということ、また、報告についてはレポートを提出していただくということで、御了解いただきたいと思います。調査事項と資料編については、後ほどゆっくり皆さんごらんになってください。

次に、その他として、名鉄関連の企業譲渡について、皆さんから何か質問がありましたら、いま副市長と経済部長にお越しいただいておりますので、いろいろ伺えると思いますけれども、何かありましたらどうぞ。

○平賀委員

報道でもいろいろ出ていますけれども、市のほうで把握している状況と経緯を含めて、お話になれる範囲で結構ですので、御説明をいただきたいと思います。

○大澤副市長

委員がおっしゃったとおり、報道等でも御存じのことだと思いますけれども、基本的には民間同士の取引のことですから、経過等について市のほうから説明というのもどうかとも思いますけれども、結果として地元の大企業である株式会社タカハシが短い期間の中で大きな決断をして、経営権を取得していただいたということについては、市としてもよかったなというふうに思っています。

この株式の譲渡等につきましては、名鉄の本体が中期の経営計画というのを作ってしまして、平成23年度末で関連企業等を含めた経営の効率化といったことを策定してまして、網走の事業については、バス事業の見通しだとか、それから船の事業の今後大きな投資が必要だというようなこともありまして、この際網走で持っている株式等を経営権を含めて譲渡することが、本体としては望ましいという考え方がありまして、そのことを、私どもとしては、1月の中旬にそういった意向があるということ把握いたしました。

内容等について詳しく知りたいということで、私のほうで名鉄のほうに出向きまして、その辺の事情を確認いたしました。その方針が名鉄本体の経営方針で固まっているということなのですが、

何とか、60年近くに渡って網走に事業展開しているわけですから、今後とも継続してくれないでしょうかというお願いと、仮にそういう形になるのであれば、地元の人材、企業で受け皿ができた場合にそのことを選択してもらえるのか、というようなお話をさせていただきました。

それにつきましては、向こうとしても新しい話ですので、水面下では色々やっていたのではないかと思うのですけれども、非常に短い時間だったので、私が行ったのが1月中旬なのですが、2月上旬までに受け皿ができるのであれば、テーブルにのせることは可能だというようなお話をいただきまして、帰ってきて地元のグループ会社といういろいろ相談をしました。グループ会社としては、やはり地元でそういった受け皿を作りたいというようなことで、まずは自分のところで続けることができるのかということも含めて、いろいろ検討されまして、地元の企業でそういった受け皿となりうるということでタカハシが出たわけですが、タカハシにお願いをしたいということで、まずはグループがタカハシに打診をしたという経過がございまして、その時に、行政としてもタカハシに対する説得、それから名鉄本社に対する説得要請、行政としてバックアップしてほしいというようなことになりまして、その後、いろいろな詰めの中で私どもも名鉄グループの会社とともに、今言ったタカハシと名鉄グループに対して要請活動をバックアップしてきたというのが経過でございます。

○平賀委員

経過、概要についてはわかりました。あとは副市長のおっしゃったとおり民間と民間の話ですから、細かい話をするつもりは私ありませんけれども、基本的なことだけ確認させてください。

まず公共交通、バスあるいはタクシーというのは今回の案件に絡んでくると思いますけれども、そこについては、運営会社が変わっても市の方針としては、今までどおりの支援含めたかわりには変わらないと理解していいか、そこを確認させてください。

○大澤副市長

今おっしゃったとおり、オーナーとなりましたタカハシは、現体制の中で事業継続、自分のところの理念と旧会社の考え方と融合させているいろいろなものにしていきたいという考え方を表明されていますし、そういった部分では、市としても今までどおりの支援は継続していくという考え方で、それはタカハシのほうにも伝えております。

○平賀委員

それと確認させていただきますと、まず公共交通については、一定の理解をしていきたいというふうに思いますが、経営母体が変わったということで、何らかの方針変更だとか、わからない話ですけれどもあるかもしれません。それが網走市の市民の皆様の暮らしを守ることにプラスになるかマイナスになるかということが出てくる可能性があると思います。どこが運営者であってもある話なのですけれども、その辺になるとまた、改めて必要な支援を行うなり、再編を行うなりということが必要だと思いますし、公共交通の活性化計画がもうことし動いているということで、その役割についてもこれまでどおりやられるのだということで、それらを通じながらコミュニケーションをしていくことと思いますが、公共交通の計画についても今現在計画している計画のとおりやっていくという考え方でよろしいですか。

○大澤副市長

先日もタカハシの社長がお越しになって、バスの通る路線バスのところとかいろいろお話になられていましたけれども、その中で新年度においては、実証試験という形で新たな取り組みをやるということだとか、それから通常どおりの補助の内容だとかをお話しましたので、そういうふうな形で進めたいと。

○平賀委員

理解いたしました。以前も一般質問や、予特の中でも提案させていただいていたのですけれども、種々協力できることとすれば、何らかの補助をし

ていくことももちろんあるのだと思うのですけれども、例えば全市的にノーマイカーデーを導入するだとかという形で、バスを含めた公共交通の運用の活性化を、施策として図っていくということも当然検討しなければならないと思いますので、その辺も含めて引き続き検討していただきたいと思います。

もう1点観光のほうも当然絡んでくる関係です。きょうは観光部長いらっしゃいませんけれども、先ほど副市長のほうから船の更新という話もありましたし、それからホテルのほうもあるのだということです。観光についても現時点で経営する母体が変わったと言っても大きな影響はないのだというそういう認識でよろしいですか。

○大澤副市長

先ほどもちょっと話しましたが、船については平成3年、それから平成7年と、造られて年数もかなり経過しているということですから、そんなに遠くない段階で船の更新というのは出てくるのだらうと思いますし、それは会社側でいろいろ考えている部分があるのではないかというふうに思っています。

ホテルについては聞くところによりますと、非常に厳しい経営状況にあって、たまたまお世話になって現状のままで黒字化を図るというのも難しい、というようなことも聞いております。どういったような形で新しいオーナーが考えているのかというのがありますけれども、私どもとしてはやはり、網走のキャパが減ることについては、相当なデメリットと、波及効果が大きい場所ですから、そのことは何とかということでお話はしていますけれども、いま聞いている段階では、ホテルの維持というのはこのままでは非常に厳しいというふうなことは聞いています。

○平賀委員

公共交通とは性質が違いますので、どうかかわっていくのかということも当然あるんだというふうに思います。

いま副市長がおっしゃったとおり、キャパが減るのだと、大きな影響が出てくると思いますし、

観光部を作っているいろいろこれからやっていこうという流れの中で、またその状況も大きく変わってくるのだらうと、流氷館の建てかえとかその辺の部分の影響は避けられないのだらうと思いますので、その辺についてはできるだけかわりをもっていきながら取り組むという方法しかないのだと思います。

船のほうですけれども、おっしゃるとおり新造船の検討を本来であれば今年度あたりから検討するような話もちらほら耳にしていたのですが、今こういうことになったので、恐らく今はまた白紙状態なのだというふうに思います。

以前船を検討するとき市が財政的に支援をするような形をとったようなことがあったのだと理解をしているのですけれども、船というのは相当造るのにお金がかかるといいますので、そういったことの部分で支援だとか、必要な対策も観光資源としては大事なものでされていくのだらうとは思いますが、何か具体的な案はありますか。

○大澤副市長

砕氷船につきましては、平成3年に1隻目を造った時は、ふるさと融資をして、利息は全くゼロなのでしたけれども、その制度を使ってもらって終了したという経過がございます。

平成7年の時はふるさと融資を使っておらず、船舶整備公団の融資を受けたということで、恐らくその時は1隻目を造って相当儲けたということもあったのではないかと思うのですけれども。私も社長になぜ2隻目の時は申請しなかったのかと聞いたら、その時は相当儲けたからだというようなことをおっしゃっていました。

ふるさと融資の制度は今もありますので、そういった具体化する時点でご相談があれば、それは十分お話にはのっていきたくて思っていますし、相当な年数経過していますけれども、船の場合は結局耐用年数より長く使っているということも実際問題としてはあるようです。

砕氷船事業、観光船事業では、高橋社長の新しい発想で、近々おもしろいことを示せるというよ

うなこともお話になられていましたので、私どもは新聞報道でも書かれていますけれども、やはり船がウトロに行ってしまうというのがやっぱり一番心配したことでありまして、そういった事情も地元だから話せる、わかっているということで、地元の企業を地元の人材でというのを名鉄本体に強く話してきたという経過もございます。

いずれにしても、今委員おっしゃるとおり、船の新造、その他でいろいろなご相談があれば、積極的にかかわっていききたいというふうに思っています。

○平賀委員

対応については理解させていただきました。

船が網走からなくなってしまう、それは冬季観光に致命的な打撃になるのだらうと私も理解いたします。今の船のクラスだとウトロでは運航はこちらの氷の厚さと違ってできないのだというお話もあるのですが、それはそれとして、継続していく意向は、流氷がある間についてはやはりなくてはならないものだと思いますし、ぜひ進めていただきたいですし、流氷がなくならないような対策ももちろんですけれども、流氷にかわる資源、その辺も含めて、タカハシが新しく砕氷船も含めた展開をされる中で、道の駅との関連でさらに観光の集客につながるの、やっただきさればと期待をされている方も非常に多いというふうに私も認識していましたので、その辺についてはぜひ市のほうも観光部ができましたので、積極的な関わりを持ちながら、企画面を含めてぜひ連携した取り組みを進めていっていただきたいと思っております。

私からは以上です。

○近藤委員

この間の経過については、副市長のお話でよくわかりました。質問というよりは今回の一連の経過を振り返ってみますと、名鉄はもともと本業が鉄道事業を中心に、東海地方で事業をやってグループ会社を再編整理するということがここ10年間の方針でした。むしろ網走を持ち続けてたことが社会貢献的な要素もあって、私はむしろよく持

ち続けていてくれたなという感謝の気持ちが強いです。

またその中で国内ファンドが手を上げた時にやはり地元の資本でやるべきなんだということで、グループ会社の方、さらにはタカハシ、市の方が迅速に動いて地元の声が届くような形で会社を網走にとどめることができたという点については大いに評価をしたいと思います。

今後の展開としては、まだまだ未知数のところもあるのですが、網走の観光の大きな転換点になると私は思っております、今まで名鉄という大資本がバックアップしてくれていたという反面、決裁のスピード感がないという難点もあったと私は思っておりますので、そういう点ではタカハシは網走に拠点を構えていらっしゃる会社ですので、決裁のスピードも上がって、より迅速で観光客のニーズに対応したような取り組みができるのかなというふうに思っておりますので、そこは私としても大いに期待をしたいところでありまして、市としても観光部を設置して、企画立案に力を入れて、網走の観光をもう一度立て直していくという意向を示されておりますので、ここは議会も、二元代表制とよく言われますけれど、いろいろな提案をしながら、網走の観光をより盛り上げていく取り組みをやりたいと思っております。

以上です。

○佐々木委員長

他の委員から質問がなければ以上でこの件に関しましては終わりたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

それでは、以上できょうの経済建設委員会を終了したいと思います。お疲れさまでした。

午前10時19分 閉会